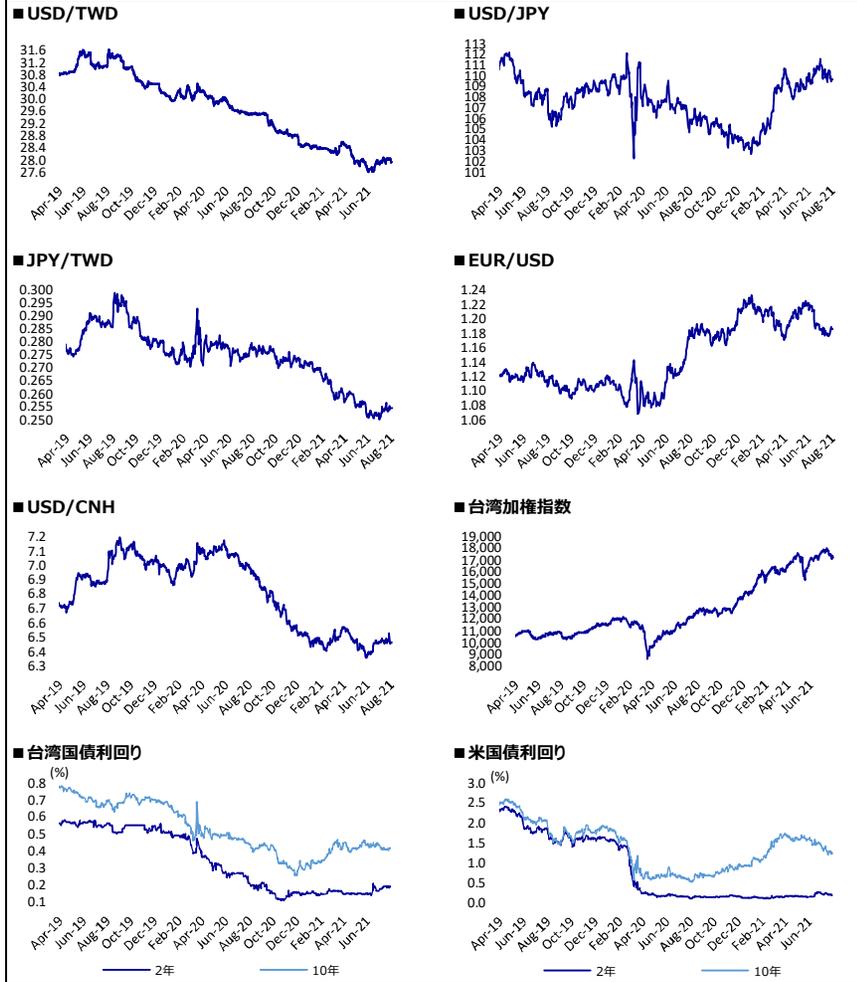


市場動向



先週の市場動向

**■ USD/TWD**  
先週のドル/台湾ドルは下落。週初7/26は28.050でオープン後、中国株が教育・不動産への規制強化の影響が懸念され大幅下落したことから台湾株も下落に転じるとドル/台湾ドルも一時28.090まで上昇。しかし、28.10付近に近づくと輸出企業のドル売りも入り上値は押さえられた。7/27は一時28台を割ったものの、引き続き中国・香港株が軟調に推移したことから台湾株も下落し、28.05付近に戻された。7/28も連日下落する台湾株から外国人投資家の台湾ドル売りが入ったものの、月末の輸出企業のドル売りが優勢となり28台を割り込んだ。7/29は中国株の下落が一旦落ち着き台湾株が反発したことや、前日のFOMCを受けドル安の流れとなり、27.93付近まで下落。7/30は月末の輸出企業のドル売りから27.910まで下落したが、軟調なアジア株につられ台湾株も下落すると戻され、最終的には先週比0.2%ドル安台湾ドル高の27.966で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は454.1億台湾ドル。

**■ USD/JPY**  
先週のドル/円は下落。週初7/26は110.40でオープン後、米株が軟調に推移し、リスク回避の円買いが強まり一時110.58円をつけたが、その後は米金利の低下等から110円台前半で推移。7/27は110円台前半で推移していたがFOMCを翌日に控えてのポジション調整の動きか、109円台後半まで下落。7/28はFOMCを前に狭いレンジで推移していたが、中国株の下落が一服し、米金利が上昇に転じたことからドル/円は110円台を回復。注目のFOMCでは、声明文でテーパリング期待の高まりにつながる内容であり、110.30円付近まで急伸するも、その後のパウエルFRB議長の発言が引き続きハト派寄りであったことを受け、109円台後半まで反落した。7/29は、米Q2GDPが発表されると予想を下回る結果となり、109円台後半まで下落し、その後も上値重く推移。7/30も上値が重く推移する中、一時109.37まで下落したが、米6月個人所得・個人支出が予想を上回ったことからドル買いが優勢となり、109円台後半まで上昇。その後は週末を控え積極的な取引は控えられ、最終的に先週比0.8%ドル安円高の109.69で先週の取引を終了。

今週の見通し

**■ USD/TWD 予想レンジ：27.900-28.100**  
先週は中国株の下落からアジア株が軟調に推移する中、台湾株の下落により外国人投資家の株式の売り越しが拡大したものの、月末の輸出企業のドル売りに相殺され28.00前後のレンジが続いた。今週は月も替わり、株価の動向に、より一層左右される展開となるであろう。

**■ USD/JPY 予想レンジ：109.20-110.600**  
今週は米雇用統計等重要指標の発表を控えている。テーパリングの開始時期を予測するのに重要な経済指標ではあるが、足許は経済指標が改善しても上値は重いため、上昇は限定的と見込む。

今週の予定

8/2 (MON)	米7月ISM製造業景況指数
8/3 (TUE)	
8/4 (WED)	米7月ADP雇用統計、米7月ISM非製造業景況指数
8/5 (THU)	台湾7月CPI
8/6 (FRI)	米7月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなされるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。